

沈黙の50年

～国から子どもをつくってはいけないと言われた人たち～



小林 寶二

林 美帆 笹岡 亮 奥田しのぶ 河合依子 KAZUKI 大城桜子
小川和久 山本直之 山本ひとみ 坂本秀和 瀬川川隆 小西貴美子/吉野幸代
声の出演: 高橋みつる・扇谷裕子(喋便朗)

製作総指揮: 大矢 暹

脚本: 横橋 恭子 舞台演出: 佐崎隆志 撮影監督・ドローン撮影・編集: 永田雅史 音楽: 水津雅幸
美術: 小川和久 衣装: 秋田京子・中宮いづみ メイキング: 水野秀章 舞台照明: 坂本幸子(Jelly Beans)
演技事務: 妹尾有希子 スチール: 小島由佳理 制作: 本戸節子・堀永典子・仲井 正 広報: 吉村真紀
エンディング曲「魂風-soul wind」作曲/福岡大介 演奏/古川組: 一圓向都・Ann Sakai
監修: 一般財団法人全日本ろうあ連盟

脚本・監督: 谷 達一



日時 2025年11月30日(日)

★午前の部

★午後の部

開演 10:00 (開場 9:30) 開演 14:00 (開場 13:30)

会場 姫路市総合福祉会館 5階 第1会議室

チケットの購入方法

① 事務局にメール・FAX・電話 (留守電あり)

必要事項: 氏名、住所、連絡先 (メールアドレス)

または電話番号【午前】or【午後】の希望

ベ切 令和7年11月20日(木)まで

〒670-0955

姫路市安田3丁目1番地

姫路市総合福祉会館2階

聴覚障害者交流スペース

TEL: 079-284-5242 FAX: 079-284-5195

himeji_deaf@nifty.com



※電話でのお問い合わせは、月・金曜日の11時～16時までの間にお問い合わせをお願いいたします。

被害者の証言

それは結婚前の親しい友だちのお祝いの会でした。先輩夫婦のひと言で雰囲気が一変。
「絶対子どもはダメ。あなたの弟妹はみな『ろうあ者』でしょう」
数年後、ろうあ者の集まりで、娘がわたくしと手話で話しているのを見たこの先輩は
『なぜそれなの。娘さんは『ろうあ者』でしょう。聞こえていたら手話などしないはず』
猛烈に叱りつけるのです。この先輩は子どもはいません。
(兵庫県 女性)

生理が月に何回もあり量も多くつらい思いをしていました。結婚後も変わらずつづいて姉に相談したら、「血がなくなつて死んでしまう」と教えられ、義姉の付き添いで病院に行きました。医師は子宮を取る手術をしました。
「これで生理出血は無いから心配ない」と言われました。子どもが作れなくなつたとの説明はありませんでした。夫は黙ったままでした。
(兵庫県 女性)

結婚の時、母から「子どもをつくらない手術をしないと、今後話さない」と言われました。しばらくはピルを飲み続けましたが、母に「止めたい」と伝えると、病院に連れて行かれました。
夫に「離婚してください」とお願いしました。夫は長い間、返事をしませんでした。
優生保護法があったのは愛知県聴覚障害者協会の役員が教えてくださったからです。それから五年間かかり裁判にも勝つて出るようになりました。
(愛知県 女性)

応援メッセージ

「不法行為から20年経ち賠償を求められなくなる『除斥期間』を理由として訴えが退けられた」のは、ろう者の実情を無視して賠償責任を逃れようとする形式論理の現本です。憲法違反の断種法とともに国の責任を明らかにすべきです。
(京都聴覚言語障害者福祉協会 理事長 高田英一)

妻の不妊手術のとき、ひと月くらい悩みました。「手術をやめろ」と言えないのが苦しかったのです。子どもがいたら成長の記録でアルバムがほしいのに、わが子の写真は一つもありません。
(愛知県 男性)



午後から学習会テーマは、「優生保護法問題と運動」の予定。

鑑賞券

★事前申込 1,000円 (中学生以下 500円)

★当日申込 1,500円 (中学生以下 1,000円)

※定員に達した場合はお断りすることもあります。

チケット忘れた方は、当日支払って頂きます。

② 申込んでから1週間以内郵便振込お願いします。振込確認ができた時点で、チケットを発送します。

※事務局から完了の連絡は行いません。

★金融機関名 ゆうちょ銀行

★店名 (四三八) ★店番 438

★預金種目 (普通預金)

★口座番号 (1176717)

★名義 (ヒメジロウアキョウカイ)

MESSAGE

旧優生保護法による強制不妊、手話が禁止された時代、障害者と女性への賠償金の減額…ろう者女性の生きづらさを繊細かつ強烈な描写で描いた芸術的映画

女性であることと障害者であるという理由で裁判において賠償額が減少されたというニュースを知った時、今なお差別が残っていることに衝撃を受けました。幼い頃からろう者コミュニティで強制不妊についてよく聞いており、また聾学校で手話が禁じられ、多くのろう者が苦しんでいたのも当たり前だと思っていました。しかし、大人になった今、当たり前ではない、女性として、母として、怒ってもいいと思いました。その怒りがきっかけで映画制作へと駆け出しました。この物語には、わたしたちろう者の女性の痛みや愛が詰まっています。3つの物語を通して過去、現在、未来を休感、共感していただけたら嬉しいです。(横尾友美監督)



監督・脚本・出演・編集・映像撮影 横尾友美 Tomomi Yokoo

Profile アーティスト (写真・映像・身体表現)

ろう者。長崎県出身、京都市在住。映画『LISTEN リッスン』に出演したことがきっかけで身体表現に目覚める。映像、写真、舞台などでろう者としての感性、アイデンティティと結ぶ身体表現の活動を行う。扱うテーマは愛、ろう高齢者、オンガク、境界線、感情、解放、身体の線、女性。



わたしたちの痛みを見てほしいー

わたしたちに祝福を



番匠七海 Nanami Bansyo

母親との信頼関係が重要であり、眼力が素敵な子役を考えると、私の母校(筑波大学附属舞学校)の先輩、番匠理恵の娘にお願いした。空手をやっているだけあって表現力抜群! 時々カメラに覗いてきたり、いたずらしてきたりするわんぱくだが、いざ本番となると、切り替えて頑張ってくれた。ぜひ眼や表情に注目していただきたい。



片岡美美子 Fumiko Kataoka

手話表現の魅力に溢れた彼女は、この映画になくはない存在。本能的に踊る人だと感じ取り、撮影の間で自然と踊る彼女を見てやばりと思った。彼女のかもし出す佇まいを映像から感じ取っていただけよう努めた。京都府で長くろうあ活動の婦人部(女性部)で活躍され、地域の貢献者として京都市から「京都市民表彰」受賞。手話を学ぶ人々からも広く愛されている



零境 DAKEI

映画「LISTEN リッスン」からお世話になっており、今回も火を回す場面で色々相談させていただいた結果、良い場面が撮れた。零境さんの身振りをアングルに取る作業には心震えた。舞踏家。国内のみならず世界中で舞台上に活動。また、アニエスベー初監督映画『わたしの名前は...』などの映像作品に出演、幅広く活動を行っている。



村上信次 Shinji Murakami

NPOこめっこで活躍しているのを拝見し、出演を依頼した。臨機応変に対応している姿から、次々とインスピレーションを頂いた。おかげで映画に良いアクセントができた。「目で聴くテレビ」キャスター、「NHK手話で楽しむみんなのテレビ」手話演者、地域の手話講座講師等の活動も行っている。

夫を亡くし、過去と現在を行き来する高齢女性、手話が禁じられ、日本語を身に付けることができなかった母を見つめる娘、子どもが欲しい女性・・・3人の女性の繰り返される痛みの先には何があるのか。

主催: 姫路ろうあ協会 上映会実行委員会

協力: 姫路手話サークル連絡会